

■ 概況

9/5~9/11のNYMEX・WTIは、55.75~57.85ドルの範囲で推移した。

9月12日は、OPECプラスの合同閣僚級監視委員会（JMMC）が開催、サウジのアブドラアジズ新エネルギー相が、サウジは協調減産を継続するとしつつも、更なる減産が12月の総会までに決まることはないと言ったことから、3日続落した。10月限終値は前日比0.66ドル安の55.09ドル。

週末13日は、前日の国際エネルギー機関（IEA）の月報が、改めて供給過剰を指摘したことから、4日続落した。ただ、米中貿易協議が部分合意するとの期待感が下げ幅を抑えた。ペーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は、733基で前週比5基減、4週連続の減少。10月限終値は前日比0.24ドル安の54.85ドル。

週明け16日は、14日サウジのアブカイクトルワイスの石油施設がドローン攻撃を受け、日量570万バレルの生産が止まったことから、高騰した。イエメンの反政府組織フーシ派が犯行声明を出したが、犯人は不明。10月限終値は前週末比8.05ドル高の62.90ドル。

17日は、当初サウジは復旧に数週間を要するとしていたが、アブドラアジズ・エネルギー相は月内には普及すると発言したことから、買戻しが強まり、反発した。10月限の終値は前日比3.56ドル安の59.34ドル。

18日は、引き続き、サウジの石油施設の復旧が予想以上に順調なことを好感し、買いが続き、続落した。米国エネルギー情報局（EIA）の在庫週報で、原油が前週比110万バレル増と5週ぶりの増加も値下がり要因。10月限の終値は前日比1.23ドル安の58.11ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場（11月渡し）は9月5日~11日の間58.50~61.10ドルの範囲で推移した。9月12日59.40ドル、13日58.30ドル、17日67.00ドル、18日63.60ドルで推移した。

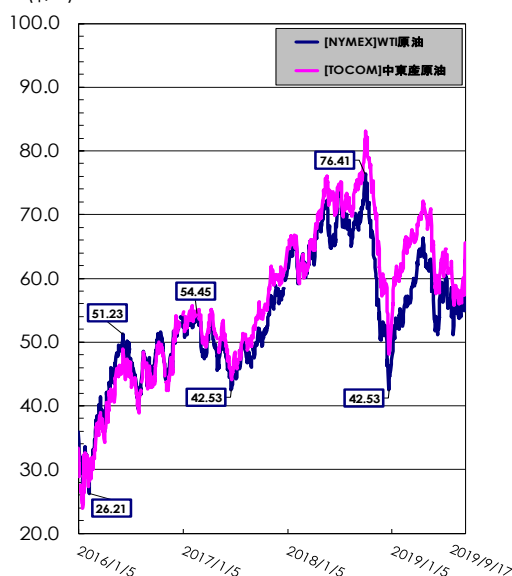
為替は9月5日~11日の間106.42~107.66円の範囲で推移した。9月12日108.09円、13日108.25円、17日108.20円、18日108.21円で推移した。

財務省が9月18日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、8月下旬の原油輸入平均CIF価格は、44,875円/klで、前旬比1,071円安、ドル建て67.32ドルで前旬比0.51ドル安。為替レートは1ドル/105.97円だった。また、同日発表の貿易統計（速報・月間）によると、8月の原油輸入平均CIF価格は、45,423円/klで、前月比301円安、ドル建て67.38ドルで前月比0.07ドル高。為替レートは1ドル/107.17円だった。

そのような中で、9月17日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油は同0.1円の値下がり、灯油は同2円の値下がり（18%ベース）だった。ガソリンは8週連続の値下がり、軽油は7週連続の値下がり、灯油は6週連続の値下がりだった。この週（9月第3週）の原油コストは値上がりで、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、2.0円~2.5円の値上げに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/8 ~ 9/14	3,244 ▼ -212	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	82.8 ▼ -5.4	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/14	12,202 ▼ -920	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	9/17	65.65 ▲ 6.45	▼ -9.2
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	9/16	62.90 ▲ 5.05	▼ -6.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月下旬	67.32 ▼ -0.51	▼ -9.64
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,875 ▼ -1,071	▼ -9,015
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	105.97 ▲ 1.72	▲ 5.36
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/17	109.20 ▼ -1.25	▲ 3.63

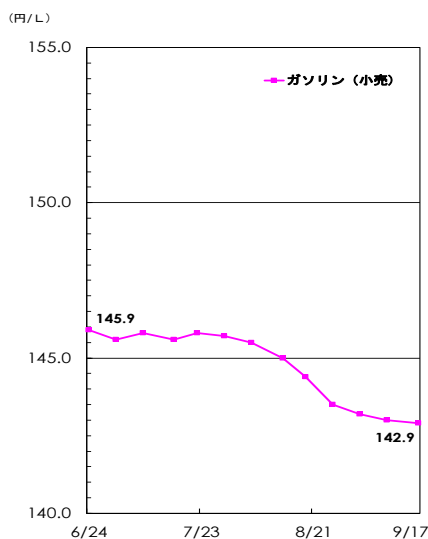
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/8 ~ 9/14	902 ▼ -108	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	938 ▲ 54	▲ -	
	輸出	"	25 ▲ 7	▼ -	
	在庫	9/14	1,597 ▼ -61	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/10 ~ 9/16	56.6 ▲ 0.6	▼ -12.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/10 ~ 9/16	53.9 ▲ 2.2	▼ -14.8
		(TOCOM/中部)	9/13	54.8 ▲ 0.8	▼ -14.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/17	142.9 ▼ -0.1	▼ -10.8	

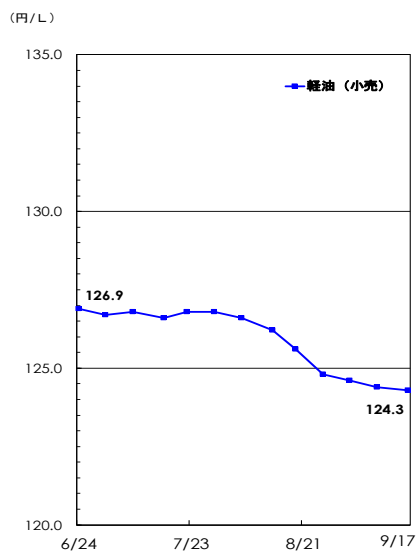
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

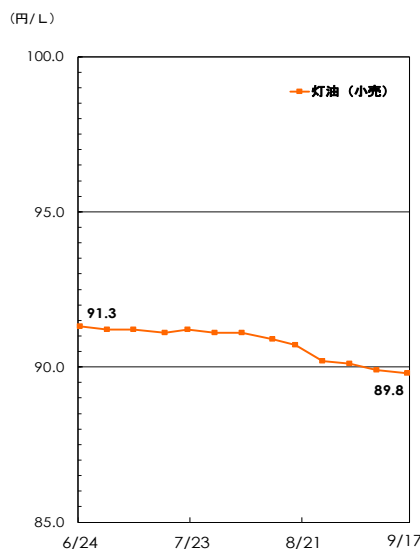
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/8 ~ 9/14	792 ▼ -150	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	689 ▲ 80	▲ -	
	輸出	"	215 ▼ -98	▲ -	
	在庫	9/14	1,586 ▼ -113	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/10 ~ 9/16	58.4 ▲ 0.1	▼ -12.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/10 ~ 9/16	59.2 ▼ -0.1	▼ -10.3
		(TOCOM/中部)	9/13	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/17	124.3 ▼ -0.1	▼ -8.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/8 ~ 9/14	284 ▲ 142	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	99 ▲ 35	▼ -	
	輸出	"	48 ➡ 0	▲ -	
	在庫	9/14	2,517 ▲ 136	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/10 ~ 9/16	58.4 ▲ 0.2	▼ -11.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/10 ~ 9/16	57.5 ▲ 1.5	▼ -13.5
		(TOCOM/中部)	9/13	58.2 ▲ 2.2	▼ -13.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/17	89.8 ▼ -0.1	▼ -4.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月18日のNYMEX市場WTI原油は、14日のサウジ石油施設への攻撃に起因する損害が想定ほどではなかったことを好感じ続落した。また、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比110万バレル増と市場予想(同250万バレル減)に反する5週ぶりの積み増し報告があり、ガソリン、中間留分も増加したことも、値下がり要因となった。10月限の終値は前日比1.23ドル安の58.11ドル、11月限の終値は前日比1.06ドル安の58.04ドル。

EIAによると、9月16日時点のガソリンの小売価格は、前

週比0.2セント値上がりの1ガロン2.552ドル(73.6円/ℓ)、ディーゼルは同1.6セント値上がりの2.987ドル(86.1円/ℓ)となった。ガソリンは9週ぶりの値上がり、ディーゼルは10週ぶりの値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年9月8日～9月14日に休止したトッパー能力は39.2万バレル/日で、前週に対して21.2万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は324.4万klと、前週に比べ21.2万kl減少。前年に対しては10.4万klの減少。トッパー稼働率は82.8%と前週に対して5.4ポイントの減少、前年に対しては2.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/10.7%減、ジェット/37.8%減、灯油/99.3%増、軽油/15.9%減、A重油/17.4%減、C重油/25.0%増。今週のC重油の輸入は4.9万kl(前週比1.8万kl増)。軽油の輸出は21.5万kl(前週比9.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、軽油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は93.8万kl(対前週6.1%増)と2週連続で増加となり、4週連続で100万klを下回った。ジェット7.8万kl(対前週44.3%減)、灯油9.9万kl(対前週55.9%増)、軽油

68.9万kl(対前週13.1%増)、A重油22.0万kl(対前週3.1%増)、C重油12.7万kl(対前週14.8%減)。

(単位:千KL)

	今週 (9/8 ~ 9/14)	前週 (9/1 ~ 9/7)	前週比	
ガソリン	938	884	▲ 54	(6%)
ジェット燃料	78	140	▼ -62	(-44%)
灯油	99	64	▲ 35	(55%)
軽油	689	609	▲ 80	(13%)
A重油	220	213	▲ 7	(3%)
C重油	127	149	▼ -22	(-15%)
合計	2,151	2,059	▲ 92	(4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月14日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ガソリン、ジェット、C重油が取り崩しになり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは159.7万kl、前週差6.1万kl減。前年に対しては6.9万kl少ない。

灯油は251.7万kl、前週差13.6万kl増。前年に対しては6.8万kl多い。

軽油は158.6万kl、前週差11.3万kl減。前年に対しては1.0万kl多い。

A重油は71.1万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては0.3万kl多い。

C重油は195.7万kl、前週差9.9万kl増。前年に対しては16.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (9/14)	前週 (9/7)	前週比	
ガソリン	1,597	1,658	▼ -61	(-4%)
ジェット燃料	876	910	▼ -34	(-4%)
灯油	2,517	2,381	▲ 136	(6%)
軽油	1,586	1,699	▼ -113	(-7%)
A重油	711	708	▲ 3	(0%)
C重油	1,957	1,858	▲ 99	(5%)
合計	9,244	9,214	▲ 30	(0.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月10日～16日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは大きく値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、9月10日～16日の間、ガソリン109～110円台で値上がり、軽油58円台でほぼ横ばい、灯油58円台でほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン111円台でわずかに値上がり、軽油59円台でほぼ横ばい、灯油55～57円台で大きく値上がり後値を戻して移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン107～108円台で値上がり後値を戻し、軽油59円台でわずかに値上がり、灯油56～57円台で出入り後大きく値下がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、2.0円～2.5円の値上げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月10日～16日の製品スポット市況は、9月3日～9日平均と比べ、軽油・先物取引を除き、値上がりした。

直近の陸上スポット価格(9/10～9/16千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.1円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油は1.7円の値上がり、軽油は0.1円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが2.2円の値上がり、灯油は1.5円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

9月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、2.0円～2.5円の値上げに分かれた。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (9/10～9/16)	前週 (9/3～9/9)	前週比
スポット価格	レギュラー	56.6	56.0	▲ 0.6
	灯油	58.4	58.2	▲ 0.2
	軽油	58.4	58.3	▲ 0.1
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (9/10～9/16)	前週 (9/3～9/9)	前週比
先物価格	レギュラー	53.9	51.7	▲ 2.2
	灯油	57.5	56.0	▲ 1.5
	軽油	59.2	59.3	▼ -0.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/10～9/16実績値)				(単位: 円/%)
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 0.6	▲ 2.2	▲ 1.4	
灯油	▲ 0.2	▲ 1.5	▲ 0.9	
軽油	▲ 0.1	▼ -0.1	→ 0.0	
A重油	▲ 0.1			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

9月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の142.90円、軽油も同0.1円安の124.3円、灯油は18%ベースで同2円安の1,617円(1%ベースでは同0.1円安の89.8円)。ガソリンは8週連続の値下がり、軽油は7週連続の値下がり、灯油は6週連続の値下がり。都道府県別には、値上がり13都府県、横ばいが10県、値下がり24道府県。全国最安値は宮城県の136.8円(前週比0.2円安)、その次は、埼玉県(同横ばい)の137.1円、最高値は長崎県の154.4円(同0.2円高)。最も値上がりしたのは1.0円高の東京都(144.1円)、最も値下がりしたのは1.1円安の奈良県(140.1円)。

先週の原油コストはほぼ横ばいで、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5円の値上げに分かれた。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは大きく値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、2.0円～2.5円の値上げに分かれた。次週(9月24日)のガソリンの小売価格は、値上がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
	今週 (9/17)	前週 (9/9)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	142.9	143.0	▼ -0.1	08/8/4 185.1
	灯油	89.8	89.9	▼ -0.1	08/8/11 132.1
	軽油	124.3	124.4	▼ -0.1	08/8/4 167.4

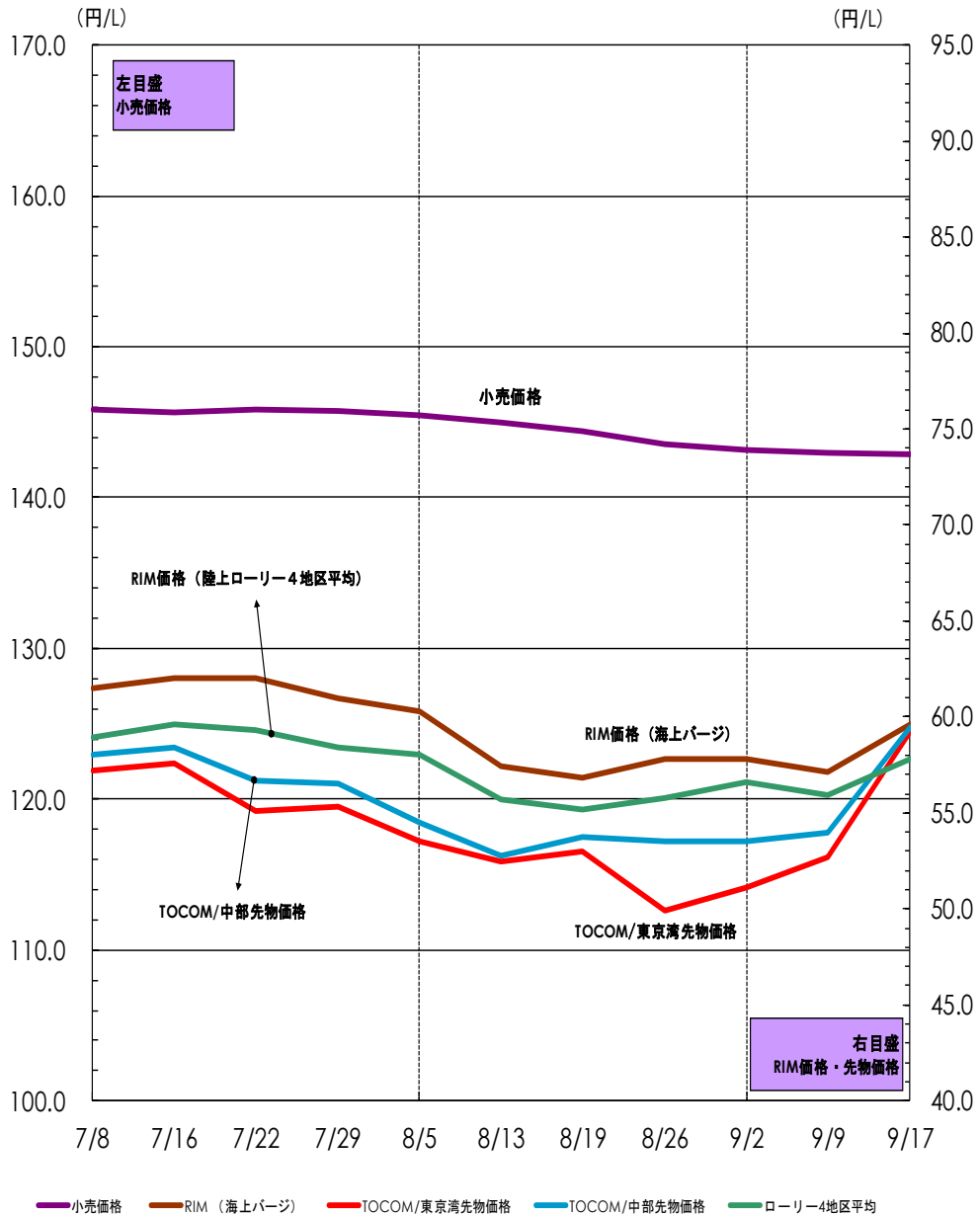
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/7/8 ~ 2019/9/17)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第24号)の公表は、9/27(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。